

JTBナイスギフト券 (額面¥5,000) 2009年8月都内で発見

(上=真正券、下=偽造券)

1. 全体写真

1) 表面

全体に黄金色でオフセット印刷である。金額欄と上下にある唐草模様は凹版印刷が施されている。偽造券のホログラムは幅がやや太い。右下の潜像部分は偽造券ではざらつきあるいは凹凸感が感じられない。



偽造券もオフセット印刷なので、印刷技術としては真正券と互角と言える。

ギフト商品券「JTBナイスギフト」の5000円券1462枚、731万円分が偽造され、都内で不正に使用されたことが分かった。

※偽造券(下)は再流通防止の意味で、半券が切られている。

2) 裏面

裏面には偽造防止対策としてはマイクロ文字程度しか見あたらず、ほとんど差異はない。



偽造券においては一見では真正券との差異は見いだしがたい。しかしながら、数字のフォント=字体が異なっている。



表面の左上に印刷されている「5000」という表記の部分に特殊印刷による凹凸がないほか、ホログラム(銀色の帯)の幅がやや広がっている。

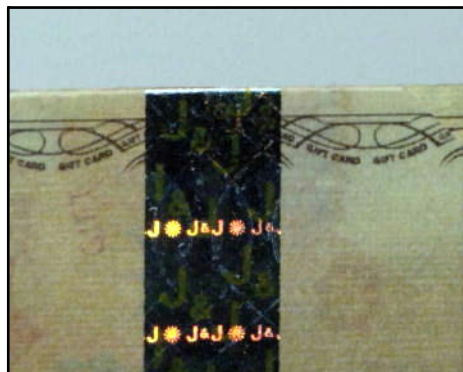
3) ホログラム

ホログラムについては偽造券の方がやや幅が広いものの角度によりしかるべき文字や画像が浮かび上がる。

ただし、金型が異なっているため、同じシフティング角度にもかかわらず視認できる画像や発光色は異なっている。

ホログラム＝文字

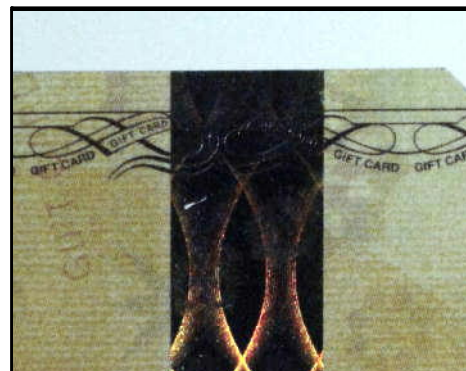
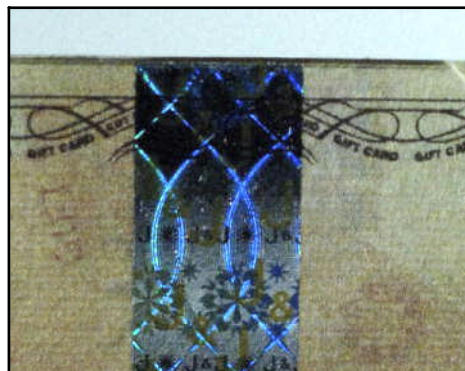
(左＝偽造券、右＝真正券)



ホログラム＝幾何学模様

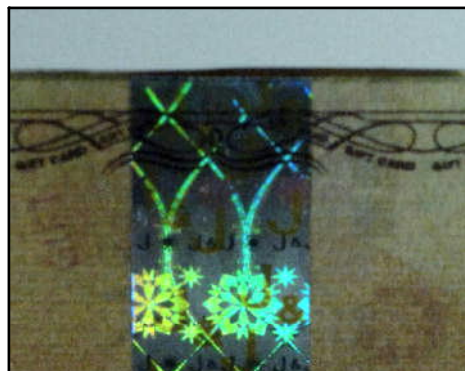
(左＝偽造券、右＝真正券)

以下同様。



ホログラム＝幾何学模様 2

(左＝偽造券、右＝真正券)



2. 拡大写真 (表面)

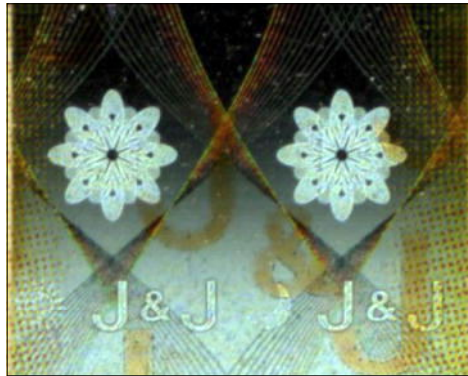
1) ホログラム

花のデザイン画像、J & J (文字)、幾何学画線が真正券と偽造券では微妙に異なっている。

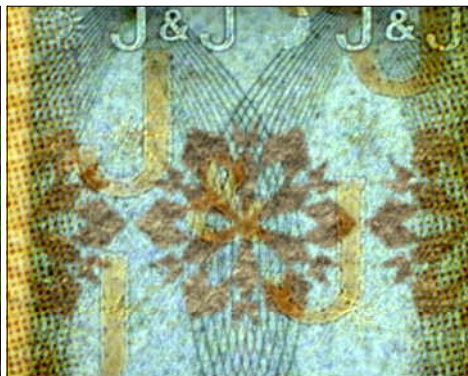
しかしながら、過去に発見されたホログラムが再現された偽造券では本件事案は格段にできばえがよい。

以下同様。

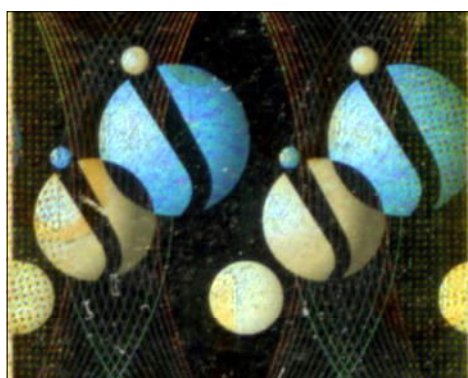
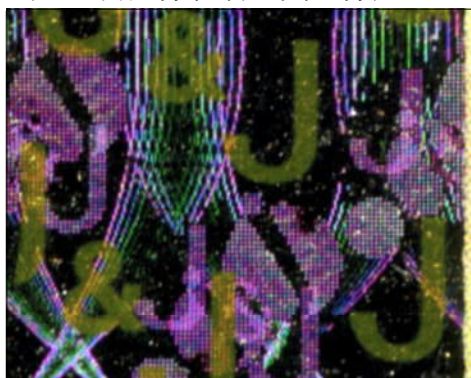
(左＝偽造券、右＝真正券)



(左＝偽造券、右＝真正券)



(左＝偽造券、右＝真正券)

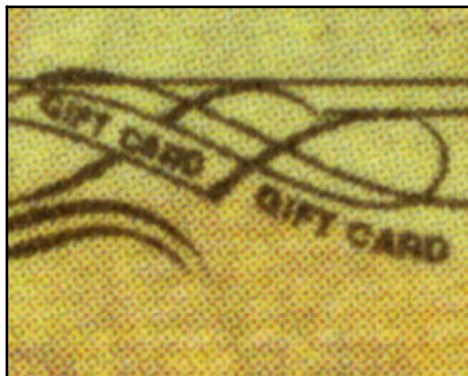


2) マイクロ文字 (微細印刷)

上下の縁取りデザインに使用されている唐草模様の中にマイクロ文字「GIFT CARD」がある。

偽造券では不鮮明で判読不能となっている。

(左＝偽造券、右＝真正券)

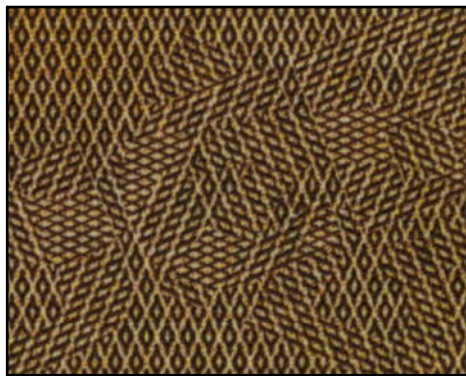
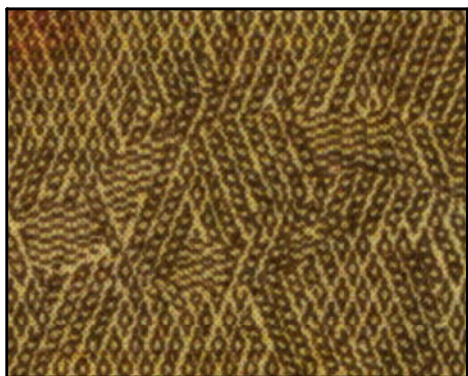


3) 潜像模様

真正券では目をこらして見ると文字JCBが交差するように描かれている。

偽造券で不鮮明で判読できない。

(左＝偽造券、右＝真正券)



4) 色分解の痕跡

ナイスギフトの文字は偽造券では不鮮明となっている。網点で構成された真正券の字体はスキャナーで色分解され再現される。偽造券では異なるデザインの網点で印刷され不鮮明となっている。

(左＝偽造券、右＝真正券)

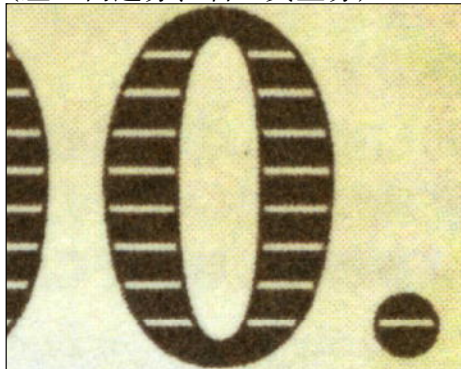


5) 文字「¥5,000」

真正券では
凹版印刷のため、
触るとざらつきある
いは凹凸感が感じ
られる。

偽造券では
全体がオフセット
印刷なので、ざら
つきあるいは凹凸
感は感じられない。

(左＝偽造券、右＝真正券)



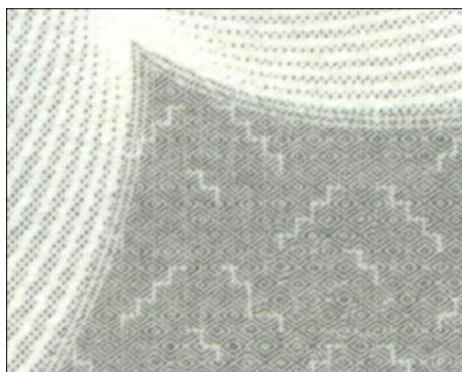
3. 拡大写真(表面)

2) 裏面

1) 微細印刷

真正券では
黒地にジグザグの
白抜き画線が視認
できるのに対し、
偽造券では不鮮
明で判読できない。

(左＝偽造券、右＝真正券)



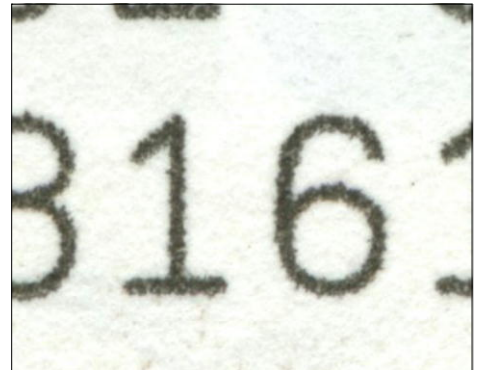
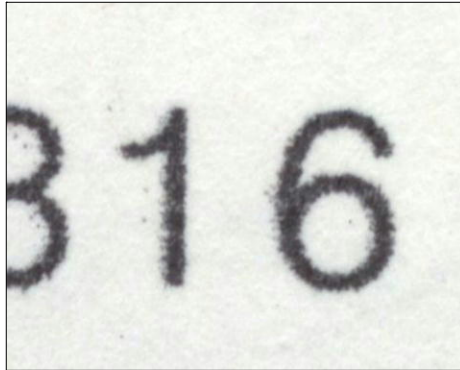
3) 数字「16」

の字体

真正券では
「1」は2画
で表記されて
いる。偽造券
では入筆時の
かえしが湾曲
し、台座部分
の横画線が見
られない。

「6」も湾
曲具合が異なる

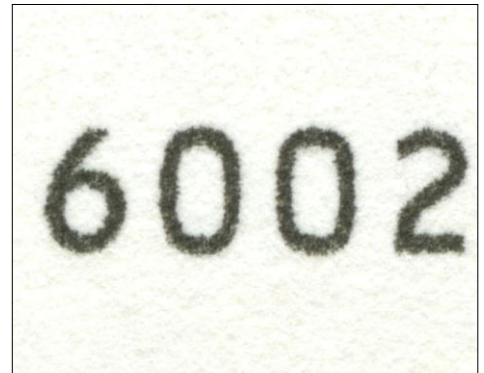
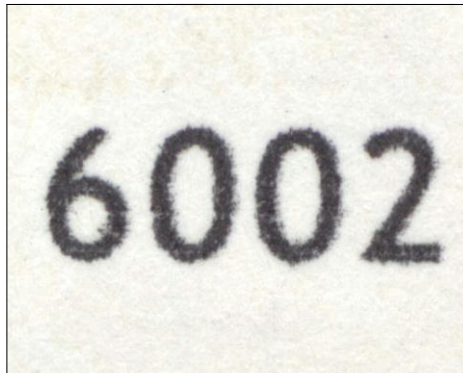
(左=偽造券、右=真正券)



3) 数字「6002」

「6」は始
筆部のかたち
が、「0」は
湾曲具合が、
「2」は転折
部の膨ら具合
が、それぞれ
異なっている。

(左=偽造券、右=真正券)



4. 蛍光反応 (表面)

1) 表面

紫外線による蛍光反応では、偽造券がやや黄色く発光発色する。

右下にデザインされた黄色、赤色、青色の玉について偽造券では蛍光発色する。

偽造券ではホログラムの中で「J & J」の文字が黄色く蛍光発色する。

(上＝真正券、下＝偽造券)



(左＝偽造券、右＝真正券)



黄色、赤が
発色する



J & Jが黄色
く発色する



2) 裏面

蛍光反応による差異はほとんど見られない。

(上＝真正券、下＝偽造券)



12. 赤外線反応

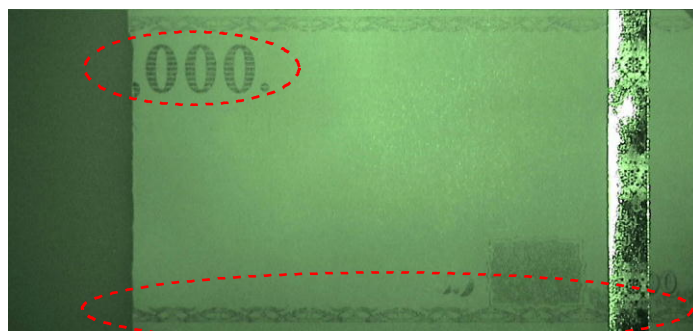
1) 表面

真正券では左上の¥5,000、上下の縁取り等の画像が赤外線を吸収するため視認できない。

しかしながら、偽造券では黒く画像が残っている。

偽造券では粒状物質が含まれていることが推定され、真正券ではそれが含まれていない可能性が考えられる。

(上＝真正券、下＝偽造券)



2) 裏面

真正券では左上の連番が見えるのに対し、偽造券では赤外線により吸収され、消えて視認できない。

真正券では粒状物質が含まれていることが推定され、偽造券ではそれが含まれない可能性が考えられる。

